

平成30年度

# 秋の防火訓練を実施！

塩釜高校では、不慮の災害に対する日頃の心構えと防災意識の高揚を図り、有事に際し生徒ならびに職員の安全確保と被害の拡大防止を目的に防災訓練を実施しています。その一環として、火災時における生命の安全の確保、ならびに災害に対する意識の高揚を促すために防火避難訓練を実施しました。また、今回は試みとして、防災に関する知識の幅を広げるための防災教育の一環として、防災講話を実施しました。

1. 実施日時 平成30年10月10日（水）東キャンパス：5校時（13：20～）  
西キャンパス：6校時（14：20～）

## 2. 内 容

### （1）火災に関する通報訓練及び避難訓練

- ①火災発生時の初期対応
- ②体育館への避難誘導

### （2）防災教育

- 講 演：東北大学 東北メディカル・メガバンク機構  
予防医学・疫学部門兼大学院医学系研究科協力講座個別化予防・疫学分野  
中谷 直 樹 准教授
- テーマ：「津波避難訓練経験と実際の避難行動（東日本大震災後の疫学データ）」



事務職員による消防署への通報訓練



避難後の点呼の様子



東北大学の中谷先生による講演

## 3. 訓練過程

塩釜高校は、キャンパスが二つあることから東西それぞれのキャンパスで防災訓練を実施しました。

訓練では、出火元に安全点検消火班の職員が駆けつけ、初期消火の手順を確認しました。その後、事務室職員から消防に通報、校内放送で避難を呼びかけました。避難先では、学校災害対策本部副委員長の大枝・藤垣両教頭先生から「自助」と「共助」に関連するお話を頂きました。その後、塩釜消防署のみなさんからは訓練の過程についてご指導を頂きました。

また、防災教育の一環として、「東北大学東北メディカル・メガバンク機構」の中谷直樹准教授に東西で計2回の講演を行って頂きました。中谷先生は、沿岸部の住民に東日本大震災後にアンケート調査を実施し、津波避難訓練に参加経験が「ある人」は「ない人」に比べて、発災直後に避難した人が1.99倍多かったことを証明するなど、地域における避難訓練の重要性を説かれています。

(次ページあり)

# 防災教育

講演：東北大学 東北メディカル・メガバンク機構

予防医学・疫学部門兼大学院医学系研究科協力講座個別化予防・疫学分野

中谷 直樹 准教授

2003年 東北大学大学院 医学系研究科障害科学専攻博士課程を修了・卒業。日本学術振興会海外特別研究員などを歴任。現在は、東北大学東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門准教授。専門は、疫学、公衆衛生学、サイコオンコロジー、行動医学、応用健康科学など。

参考：(Nakaya N, et al. Int J Disaster Risk Reduct. 2018;28:206-213)

## 「東北大学 東北メディカル・メガバンク機構」

東北大学 東北メディカル・メガバンク機構は、東北の地域住民の健康・医療を支える「バイオバンク事業」と、世界の医学研究に貢献する「ゲノムデータベースの構築」を行っています。その始まりは、「東日本大震災に見舞われた東北の地で、東北大学として何が出来るか」、長期にわたると予想された復興に向けて、東北地方に長期的な医療支援が必要であると捉えたことから、「東北メディカル・メガバンク計画」が歩み出しました。

第1段階として、平成28年度までに健康調査を実施し、15万人規模のゲノム情報を含む住民コホート形成をするべく、試料の保管温度や輸送状態、スタッフの稼働時間などを調査し、プロセスを最適化することによって実現しました。また、早期に1000人分のゲノムを解析し、日本人の全ゲノム参照パネルとして公開しました。「東北大学」という組織が長年培った「地域住民からの高い信頼」が欠かせませんでした。一方で、震災直後から東北大学をはじめ地域の医療従事者が現場に入り、日常診療と並行して災害支援を続け、東北地方が震災以前から医師不足であったことや、半年ほどで医療現場の疲弊が目立つようになったことから、東北の医療を支える新たな仕組みが必要とされる中、開始されたのが「一般住民コホート調査」と「バイオバンク事業」を組み合わせた「東北メディカル・メガバンク計画」です。

一般住民コホート調査とバイオバンクは、地域を支える医療基盤になりうることに加え、医師や研究者を惹きつける装置にもなり、東北地方に長期的な支援が可能になると考えております。

(峯岸直子教授と長神風二特任教授：東北大学 東北メディカル・メガバンク機構より引用)



避難訓練の大切さについて

西キャンパスでの講演の様子

中谷先生の講演を真剣に聴く生徒

## 講話の内容

中谷先生からは、はじめに東北大学東北メディカル・メガバンク機構の事業についてのご紹介頂きました。その後、東北地方沿岸部における「想定3地震の津波高と東日本大震災における浸水高との比較」・「津波注意報と想定される津波の高さ」・「地震・津波から身を守る」・「津波避難マップ」・「ライフジャケットの実用化」・「東日本大震災前後の地震・津波防災訓練の参加経験と避難状況の比較」など、多くの講話をしていただきました。お忙しい中、教材の作成から打ち合わせ並びに講演まで、大変にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。「ありがとうございました！」

宮城県塩釜高等学校：総務部（防災担当）